

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	東京外国語大学	整理番号	1-4-018
応募テーマ	主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	生きた言語修得のための26言語・語劇支援		
申請単位	学部単位		
申請担当者	麻田 豊		
（取組の概要） 本取組は、東京外国語大学で専門的に教授されている26言語による「語劇」に対する全学的な支援プログラムである。これまで81回に及ぶ秋季の学園祭で、各言語専攻の学生たちは自主的な課外活動として語劇の上演を継続してきたことが、その背景にある。 本学の語劇は、(1)26言語専攻のすべての学生が取り組む課外活動であると同時に、(2)学生の単なる課外活動にとどまらず、「言語と世界の地域文化の教育」を核とする本学の教育課程と、「生きた言語文化体験」としての学生の自主的な課外活動が有機的につながっている点に大きな特色がある。 それゆえに、本学は、こうした学生の自主的な課外活動に対して、さまざまな側面で組織的に支援してきている。また、今後、本学としてはいっそう「社会に開かれた語劇実現」のために支援していきたいと考えている。学生たちの熱意は強く、学園祭での上演だけに満足せず、日本の各言語コミュニティでの上演や、さらには海外公演をも目指している。こうした動きに対しても、本学は全面的に支援していきたい。			
（採択理由） この取組は、東京外国語大学の教育目標である「高度な言語運用能力と世界諸地域の言語・文化・社会についての深い知識、グローバルな視点を身につけて、異文化間の相互理解と地球社会における矯正の実現に貢献できる人材の養成」を達成するために、戦争による中断はあったものの、これまで81回におよぶ26言語による「語劇」を学園祭(外語祭)のメインイベントとして上演され、学生(学生にはアンケート調査を実施)、教職員、観客(大学関係者以外の人たちを含む)の「声」から推察できるように、大きな成果を上げていると評価します。 この取組は、外国語大学ならではのユニークな内容であり、運営方針も学生の課外活動を大学が積極的に支援する体制がとられています。学生の参加意欲も高く、この活動が「語劇」を通して、その言語文化の理解を促進し、結果的に語学習得に多大な成果を上げていることは大いに評価できます。 特に、この取組は、学生の学習への高い動機づけ、言語文化への理解、組織的活動への参加による社会性の向上の点で高い評価が与えられてよいと思いますが、今後の課題としては、「語劇」そのもののより深い理解をすすめること、より広く社会への			

開放に向けて努力すること、そしてこの取組の客観的な評価（客観的な数値化）を測る工夫が必要であると考えます。

上記の点が改善されれば、学生たちの「学外へ、社会へ、そして世界へ」踏み出すための、より優れた取組に発展することが期待されます。